

Fight!
Fukushima!

がんばろう
ふくしま!

週刊 避難者応援情報紙

浜通り

3月18日発行

Vol.444

さんじょうライフ

皆様の生活する上での不安や疑問を少しでも解消していただくための情報紙として、毎週お届けします。



3/11

水

南相馬市HP

「みなみそうまトピックス」から

東日本大震災追悼式

東日本大震災から丸9年を迎えた11日、「ゆめはつと」で、南相馬市東日本大震災追悼式が行われました。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、規模を縮小し、除菌対策などを講じての開催となりました。



© City of Minamisoma



2ページをご覧ください。

目次

●被災自治体News

南相馬市	3
浪江町	5
双葉町	7

●全国健康保険協会（協会けんぽ）

・東日本大震災で被災された方に対する健診・保健指導の費用の還付について	9
-------------------------------------	---

●交流ルームひばり通信

・3月・4月の「ひばり」	10
--------------	----



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

3/11 水

東日本大震災追悼式

東日本大震災から丸9年を迎えた11日、「ゆめはっと」で、南相馬市東日本大震災追悼式が行われました。今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、規模を縮小し、除菌対策などを講じての開催となりました。

式では、門馬市長が式辞を述べたほか、遺族代表として田村江久子さん(鹿島区)が追悼の言葉を述べ、会場は悲しみに包まれました。

その後、総理大臣官邸の献花式の映像が中継され、地震が発生した午後2時46分に合わせ1分間の黙とうをささげました。

中継終了後、代表者が献花を行い、犠牲になられた方々の冥福を祈りました。



© City of Minamisoma



みなみそうまチャンネル

南相馬市



電話でのお問合せ

TEL:0244-26-5663

(平日のみ 午前9時～午後5時)

今週の番組 60分 ※パソコン視聴

番組内容 [3/13～3/20]

1. オープニング&今週の番組 [2分]
2. 南相馬市のコロナウイルス感染症対策について 市長から緊急メッセージ [9分]
3. はじめようプロジェクト～Again～ 後編 [25分]
4. 南相馬・福島路線延長 福島ロボットテストフィールド福島線出発式典 [8分]
5. ふくしまみらいビジネス交流会 in 福島ロボットテストフィールド [12分]
6. パノラマ360° FLIGHT No.003【鹿島区】 [3分]
7. リクエストアワーのお知らせ [1分]





南相馬市からのお知らせ

市民の内部被ばく 検診結果

3月16日HP更新

検査時期

平成31年4月1日から令和元年9月30日

受診者

南相馬市民 4,094人（大人 910人、子供 3,184人）

検査機器

キャンベラ社製WBC（南相馬市立総合病院）および日立アロカ社製WBC（医療法人伸裕会 渡辺病院（渡辺クリニック））を使用し、セシウム134および137に由来する放射線を測定しました。機器の器械的測定検出限界は、約250ベクレル/body(体重)です。今回の結果は、南相馬市立総合病院および渡辺クリニックでの測定結果をまとめて集計しています。

検査結果の説明

※添付資料と併せてご覧ください。

- 図 1-1、1-2：今回の測定で放射性セシウムが検出された方は、成人および高校生で1名(0.1%)、子どもからの検出は0名でした。
- 図 2-1、2-2：平成23年9月から令和元年9月の月別受診者数とセシウムの検出率の推移をグラフで表しています。
- 図 3-1、3-2、3-3：今回の検査期間で放射性セシウムが検出された1名の方は70代であったため、年齢別検出割合は70代が1.04%となりました。食生活の違い等が影響していると考えられます。
- 図 4-1、4-2：アンケートの結果、内部被ばくの原因として気になる食材をみると、キノコ類で「とても気にしている」「気にしている」の割合が比較的高い傾向がありました。チリやほこりの吸入については、全体的に「全く気にしていない」「あまり気にしていない」の割合が半数以上になりました。
- 図 5-1、5-2：食べ物の調達方法をみると、キノコについては産地を選ぶ方が若干多くなっていますが、他の食物は産地を選ばず、スーパー等で購入している方が多くなっています。

次ページへ続きます

●図 6-1、6-2：自宅の飲料・調理水の種類をみると、飲料水はミネラルウォーターを使用されている方が比較的多く、調理水は市水道を使用されている方が多い傾向にあります。

●図 7-1、7-2：多くの方が年1回以上のWBCによる検査継続を引き続き希望されていることがわかりました。南相馬市では、今後もWBCでの検診業務を続けていきますので、ご自身の安心のためにも積極的に受診をお願いします。

結果の総括

今回は、平成31年4月から令和元年9月末までの検査結果に基づいた南相馬市民の内部被ばくのリスクについて、委員会見解を報告します。

(1) 体内に放射性セシウムを取り込んでいる方は、子どもにはおられず、大人でも極めてわずかな状況です。このことから、現在、南相馬市における汚染食品等の摂取による内部被ばくのリスクは、非常に低く抑えられています。

(2) これまでの検査結果から、通常の流通食品を食べる生活を続けていけば、健康に影響するような内部被ばくは生じないと推測されますが、今後も引き続き積極的な情報提供を行います。

(3) 南相馬市では、市民の健康を守るために、今後も内部被ばく検査をはじめとした事業を実施し、市民の内部被ばくを増やさないための活動を続けていきます。市民の皆様は、自身の健康に対する安心のためにも、積極的に受診して下さるようお願いいたします。

令和2年2月18日

南相馬市長 門馬 和夫

南相馬市放射線健康対策委員会

委員長 京都大学名誉教授 渡邊 正己

委員 東京工業大学放射線総合センター准教授 富田 悟

委員 南相馬市立総合病院地域医療研究センター長 坪倉 正治

委員 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

量子医学・医療部門高度被ばく医療センター 熊谷 敦史

被ばく医療部診療グループグループリーダー

問い合わせ

健康福祉部 健康づくり課 放射線健康係

TEL 0244-44-2121



浪江町からのお知らせ

浪江町HP「つながろう なみえ」から

あの日から9年

3月11日

東日本大震災から3289日の時が経ちました。

晴れ渡る青空のもと、浪江町では午前中、沿岸部の棚塩地区で一斉搜索が行われ、午後には、追悼式と慰霊祭が執り行われました。

午後2時46分には黙とうをささげ、震災の犠牲への冥福を祈りました。



また、震災当時、津波から多くの人々を守った大平山霊園では、文化功労者である橋本堅太郎氏から寄贈された「母子像」の除幕式が行われました。

今回の寄贈は、橋本氏が二本松市名誉市民であることから、二本松市長の仲介により実現しました。橋本氏からは、震災で犠牲になられた方の魂を悼み、被災したすべての浪江町民の心の安穏を祈念して、

「深い悲しみを負った浪江の皆さんの心にも
いつの日か花ひらく日がくることを念じて」

という言葉いただきました。



あの日から10年目の節目を迎える浪江町。

今年は、請戸漁港の再開、道の駅のオープンなど、復興に向けて大きな動きがある年になります。

浪江町HP「つながろう なみえ」から

水素で紡ぐ未来への第一歩、浪江町からスタート！

太陽光発電で「電気」を作り、その電力で「浪江町の水」を電気分解、そして「水素」を生産する。

再生可能エネルギーを利用した“世界最大級”の水素製造拠点「福島水素エネルギー研究フィールド」が、3月7日（土）浪江町の棚塩地区に誕生しました。

通称「FH2R（エフエイチツーアール）」と呼ばれるその施設では、燃料電池車を動かすために必要な水素を、1日で約560台分も製造でき、貯蔵・供給も可能です。

“浪江産水素”は、新国立競技場の聖火台や、3月26日（木）からスタートし、町内もコースの一部になる「東京2020オリンピック聖火リレー」のトーチの燃料として活用されることが決まっています。

オリンピック・パラリンピック史上、水素の活用は初めてで、“浪江産水素”の名が歴史に残ります。



「FH2R」の開所式では、安倍内閣総理大臣が、開発中の次世代燃料電池車を運転して華麗に登場。

「原発事故で大きな被害を受けた福島から、未来の水素社会に向けた新しいページが今まさに開かれようとしている。福島産のクリーンな水素が工場の生産現場を動かすエネルギーとなり、バスやトラック、あらゆる自動車の燃料となる。そのような水素の新しい時代を、共に築き上げていきましょう。」と述べ、今後の水素エネルギーに大きな期待を示しました。

なお、安倍内閣総理大臣は、開所式の前に請戸地区の大平山霊園で、吉田町長から震災当時の状況や復興について説明を受けた後、震災慰霊碑に献花。町内の創作和食店「こんどこそ」で昼食をとるなど、町の現状を把握した上で、式に臨まれています。

“浪江産水素”が、再生可能エネルギーの歴史の新たな1ページに刻まれました。

浪江町はさらなる復興に向けて、大きな一歩を踏み出します。





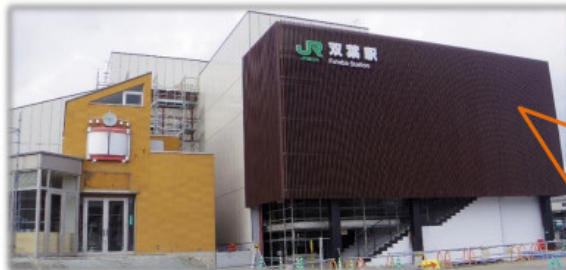
双葉町からのお知らせ

3月14日 J R 常磐線が全線運転再開し、J R 双葉駅の駅舎も自由通路を備えた新しい駅舎になります

3月13日HP更新

3月14日、9年ぶりに J R 常磐線が全線運転再開し、双葉駅にも1日6本の特急列車、1日22本の普通列車が停車します。

また、東口は2次交通との結節点や、お祭りやイベントが開催可能な空間として新たな駅前広場を整備しました。



線路をまたぐように駅の東側と西側を結ぶ自由通路が整備され、新しい駅舎はその自由通路にあります。

Suica も使えます！

双葉駅で特急の乗車券も購入できます。



3月4日から双葉駅を中心とする区域（555ha：特定復興再生拠点区域）の立入りが自由化されており、3月14日からは電車を利用して双葉駅で下車し、駅周辺に自由にアクセスすることができます。

なお、東口においては、3月13日から車を共有で利用できるカーシェアリングサービスが開始され、一時帰宅や町内外への買い物、中野地区への来訪などさまざまな目的で利用できます。

その他、どなたでも利用できるシェアサイクル（自転車の貸し出し）や中野地区と J R 双葉駅を結ぶシャトルバスの運行についても整備を検討しています。

J R 双葉駅前 レンタカー・カーシェアサービス導入場所（予定）



導入位置（予定）

問い合わせ

復興推進課

TEL 0246-84-5203

JR双葉駅東口においてカーシェアリングサービスの提供が開始されます

3月13日HP更新

3月13日から、JR双葉駅の東口にてカーシェアリングサービスが始まります。
Honda EveryGo（エブリゴー）のステーションが設置されます。

概要

サービス名：『Honda EveryGo（エブリゴー）』
提供事業者：(株)双葉ホンダモータース（代表：相浦永一氏）

利用イメージ

カーシェアリングとは、会員間でクルマを共同使用するサービスです。
レンタカーのように店舗受付で借りるのではなく、直接駐車場へ行き、会員登録したIC
運転免許証などでクルマを解錠・施錠するという仕組みで、手軽に利用できるのが特徴で
す。ちょっとした移動に最適です。

例えばこんな時に

- ・一時帰宅する際の双葉駅からの足として。また浪江など近隣への買い物の足として。
- ・中野地区復興産業拠点に立地される企業のビジネスツールとして。
- ・7月に開業する産業交流センター、東日本大震災・原子力災害伝承館への移動手段として。
- ・双葉駅を起点とした浜通りの観光周遊手段として。



利用方法

詳しくは、<https://everygo.honda.co.jp/> をご覧ください。

または、コールセンター ☎0120-830-092（24時間受付）へ
お問い合わせください。



問い合わせ

復興推進課

TEL 0246-84-5203

東日本大震災で被災された方に対する 健診・保健指導の費用の還付について（令和2年度）

全国健康保険協会では、東日本大震災で被災された加入者の皆さまが受診された健診・保健指導（協会けんぽが実施するものに限る）に要した費用の還付を行っています。

令和2年度におきましても還付の取り扱いを延長することとしましたので、還付対象者、申請方法等については下記をご参照願います。

●還付の対象者について

次の（１）と（２）の要件を満たされている方が対象となります。

（１）以下の健診等を受けている方

- ・被保険者の方……生活習慣病予防健診、肝炎ウイルス検査
- ・被扶養者の方……特定健康診査・特定保健指導

※健診等を受けた際に、独自に追加された検査（協会けんぽからの補助が無い検査）の費用は還付対象になりません。

（２）一部負担金等免除証明書の発行を受けられた方

健康保険一部負担金等免除対象の方が、年度途中で対象から外れる場合、対象外となった年度においては、健診・保健指導の費用の還付対象となります。

●還付対象期間等について

東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う避難指示区域等の対象地域の被災者の方が令和3年3月31日までに受けた健診等の費用が還付対象となります。

ただし、健診等を受けた日（保健指導については初回面談を受けた日）の翌日から起算して2年以内に申請していただく必要があります。

●申請方法（申請書類）について

「還付申請書」に必要事項をご記入の上、「領収書」および「健康保険一部負担金等免除証明書」（どちらもコピー可）を添付して、近くの協会けんぽ支部に郵送してください。

	生活習慣病予防健診	特定健康診査	特定保健指導
還付申請書			

問い合わせ

全国健康保険協会（協会けんぽ） 新潟支部 TEL 025-242-0262

3月・4月の『ひばり』

日	月	火	水	木	金	土
				3/19	20	21
				ひばり休み 浜通り配布	春分の日 ひばり休み	ひばり休み
22	23	24	25	26	27	28
	ひばり休み	ひばり休み		ひばり休み 浜通り配布		ひばり休み
29	30	31	4/1	2	3	4
		ひばり休み		ひばり休み 浜通り配布	ひばり休み	ひばり休み

問い合わせ

交流ルーム ひばり

(総合福祉センター内)

運営：さんじょうふくしま「結」の会

TEL 0256-33-8650

E-mail hibari_sanjo_nyh@yahoo.co.jp

[運営時間] 日・水・金 午前10時～午後2時
月 午前10時～正午

※さんじょうふくしま「結」の会

避難者と三条市のボランティアの有志で組織している団体で、「交流ルームひばり」の運営を無償で行っています。「交流ルームひばり」へお気軽にお立ち寄りください。

避難先住所等の届け出について

東日本大震災に伴い避難されている方で、次のような場合は、全国避難者情報システム（避難者名簿）に登録されている内容を変更する必要がありますので、ご連絡ください。

- ・転居したので住所が変わった（変わる予定である）
- ・家族構成が変わった（子が進学などで転出、帰還した家族がいるなど）
- ・避難生活が終了した（避難の意思を有しなくなった）

連絡先

三条市役所 福祉課 福祉・公営住宅係

TEL 0256-34-5405

三条市に避難している 世帯数と人数(2020.3.18現在)

市町村名	世帯数	人数
小高区	17	43
原町区	4	7
南相馬市 計	21	50
浪江町	3	11
双葉町	1	3
郡山市	4	9
合 計	29	73

発行/三条市総務部政策推進課 三条市旭町二丁目3番1号
Tel 0256-34-5511